

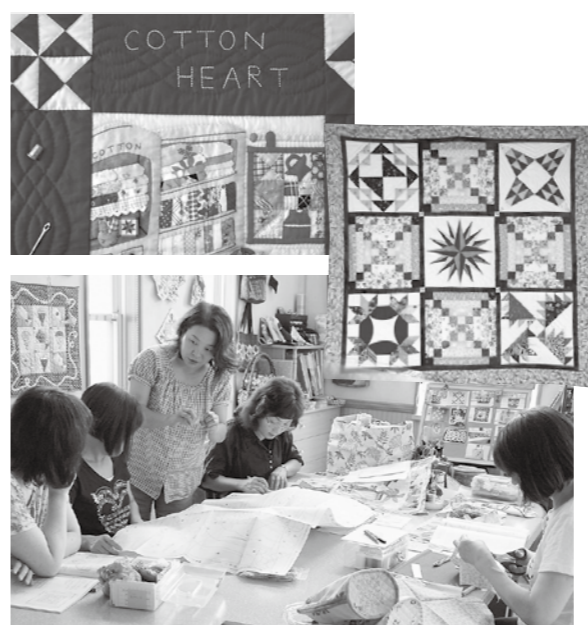
生徒さんも私も 楽しみ優先

パッチワークキルトサークル
「コットンハート」主宰

倉田 圭子さん



「あぁ幸せ...」
生徒さんの声が響く。倉田圭子さん（49歳）のパッチワークキルトサークル（以下「サークル」と表記）、「コットンハート」。「圭ちゃん、これどうするの？」質問が飛ぶ。



サークルの様子(中央が倉田さん)

ぶ。別の生徒さんが「揚げ玉はきゅうりと炒めてしょうゆをたらすとおいしいのよ。」チクタクと針を持った手を動かしながら言う。すると、たちまち料理談義が始まった。「自分へのご褒美なんだ。」「ここにこねこ(来ないう)とストレスたまるじえ。」と、みんな実

に楽しそうだった。
二十数年前、倉田さんは金融機関に勤めていた。その頃は仕事を続ける女性は少なく、結婚すると会社を辞めるのが普通で、彼女も結婚し、退職して子どもを産んだ。子育てをある程度終えて働き始めようと思っても、事務職の求人を見ても、さほどしかなかった。「何かやりたい。で

も、何ができるんだろう。」そんなふうに思い始めた頃、実家の父がホテルの料理長を退職。夫の両親の協力もありレストランを開店することになった。「どうすればいいだろう。」と考えた。「家族の将来のため、そして融資を受けやすくするために会社を創ろう。」
それから彼女は図書館に通い、有限会社の創り方を独学で学び、子どもをおんぶして法務局や公証人役場にも通った。商業高校で簿記などを習ったので経理は思い出しながら自分ですることにしたが、全くの未経験だった接客のしかたは仕入れ先の直営の喫茶店でアルバイトをして学んだ。店舗のデザインイメージも家族で相談して作ったという。

「どうしてサークルをやるうと思ったのですか。」の質問に、「父も家族も高齢になってきますし、『このままでいいのかな。』とまだ余力があるうちに考えてみたんです。子どもが少し手を離れた頃に趣味でパッチワークを始めました。」「だって場所もとらず布も少しで済むからお金もかからないでしょう。若い頃は手芸とは無縁で子どもの幼稚園の袋物も母に作ってもらったくらいだったのに。」と笑う。レストランにそれを飾ると、教えて欲しいという人が現われた。平成18年、会社組織はそのままにして9年続いたレストランを閉店。「コットンハート」を誕生させる。チケット制にして、一回からでも予約無しで利用できるようにした。儲けは少ないが、その分曜日にとらわれず、気楽に來てもらう事ができる。そんな彼女の支えは夫が言ってくれる「自分が楽しめて、人にも喜んでもらえるのが一番。」という言葉である。だが、「うちは9月決算にしてるんです。役所も混まないからいろいろ

質問できるでしょ。」と、経営そのものを楽しんでる彼女もいる。
三年前より南山形公民館から依頼を受けてパッチワークを年一回教えているという。また、しっかりとパッチワークの勉強をしたいという生徒さんのために、財団法人日本手芸普及協会認定講師の資格を取ったり、東京にまでも勉強に行く。将来的には、みんなキルトを作り、病院や福祉施設に寄付してみたいのだそう。
「心のリラックスは人と話すことで得られることもある。」と彼女が言う。パッチワークを媒体にして人の心もつながってしまう。ここにはそんな効果もあるらしい。実に居心地のよい空間なのである。

◎起業に関するご相談は...
山形商工会議所 023-622-4666
◎ぶら-な25号にも起業特集を載せています。
(山形市役所のホームページより)
ダウンロードしてください。

《取材を終えて》
料理人のお父さんも、今年は南山形公民館で男の料理を教えるそう。」「難しい料理より家族に喜んでもらえる料理にしたら。」とアドバイスしているという。誰かを楽しませることが自分の楽しみでもあるということなのだろう。
起業すると「口にいってもいろいろなる場合がある。利益を出すためという人もいるだろうし、自己実現のためという人もいるだろう。倉田さんは「どうすればいいのかな。」と常に自問しながら前に進んでいる。

編集協力員 布施木 洋子

知ってる? イクメン・カジダン・ファザリング

下のチェックシートは、「ファザリング・ジャパン」が企画した女性向けの婚活セミナーで使われた資料です。イクメンになれそうな男性の特徴だそうです。

イクメンになれそうな男性の特徴

- 他人と自分の違うところを認められる
- 日常生活でよく笑い、笑顔が多い
- 実力以上によく見せようとしていない
- 相手の話をよく聴く
- 身の回りのことは自分でできる
- 自分から積極的に仕事に取り組み
- 自分の家族に感謝の気持ちを持っている
- 腹を割って話せる仲間がいる
- 遊びも仕事も熱中して楽しんでいる
- 自分らしさを知っている

(「ファザリング・ジャパン」作成資料より抜粋)

「イクメン」「カジダン」「ファザリング」、あなたはいくつご存知ですか。
「イクメン」とは育児を楽しむメンズのこと。「カジダン」とは家事に積極的な男性。「ファザリング」とは父親であることを楽しむ生き方のことです。
今回はその活動を紹介しながら「父親」について考えてみたいと思います。

さて、あなたのお父さんはどんな方ですか？その答えは千差万別だと思います。しかし、求められる父親像や実態は、時代によって違うようです。例えば、高度経済成長期の父親は子供の褒顔しか見れないと言われました。
では、今求められる父親とはどのような人なのでしょうか。

●イクメンが増えつつある

「子供が生まれ父親になったら、仕事も育児も両立しながら楽しんで生きていきたい。」そうした「ファザリング(父親であることを楽しむ)」という意識を持った若い世代の男性たちが、いま確実に増えています。

●でも現実

日本の職場や社会の意識は旧態依然のまま。長時間労働を強い会社と、子育てに参加して欲しいと願う妻のプレッシャーに挟まれ...

●どうしたらいいの?

「ファザリング」を浸透させ、「よい父親」ではなく「笑っている父親」を増やしていく。それが働き方の見直し、企業意識改革、社会不安の解消、次世代の育成に繋がり、十年後、二十年後の日本社会に大きな変革をもたらすと信じて。

イクメンの必要性

確かに近年、公園や遊園地でベビーカーを押す若いパパが目立ちます。時代は変わりつつあると思います。
今は親世代との同居も減り、夫婦単位での子育てはあたりまえ。しかも共働きしかなくては家計が成り立たないという状況です。

「大丈夫かな...?」



お父さんと子どもの料理教室より

高度経済成長期、父親は家に帰って「フ口、メシ、ネル」としか言わないと報道されたことがあります。
しかし、現代ではそうはいきません。女性たちは、家庭生活を共同でサポートし合えるパートナーを求めているのです。

他にも「ファザリング・ジャパン」では、ファザリングの啓発セミナーや一芸を身につけてもらうワークショップ、父親の自主参加型保育園、パパ検定、パパのネットコミュニティ形成、父親の子育て事情調査など、さまざまな活動を通して父親の子育て参加を応援しています。
「子育てって義務じゃなくて楽しい権利。子育てに主体的に関わっていくと自分の人生がおもしろくなる。」と、代表の安藤哲也さんは言っています。
最初は誰でも初心者です。肩の力を抜いて、「いっちょやってみっかー」というお父さんが増えることを願っています。

- ◎「ファザリング・ジャパン」ホームページ
- ◎「ママズスタイル」安藤哲也氏インタビュー

編集協力員 布施木 洋子

NPO法人ファザリング・ジャパン代表理事 安藤哲也さんからメッセージをいただきました

～パパとママの笑顔が子どもを育てる～



大人たちの笑顔を見て、子どもは未来に希望を持ち、大きく自立していくのです。

子どもを育てるといことは、子がもって生まれた「育つ力」を信じ、それを支え、導きながら、大人として自立させることです。彼らが大人になってこの世で果たす役割はとても大きい。だから親業ほどおもしろい仕事はないのです。
子どもたちの健やかな成長のためには、まずはパパやママが自分の人生を肯定できて笑顔でいることが大切。子育て中はいろいろ大変ですが、夫婦の絆を大切に、地域との関わりの中で楽しんでください。その

公式ホームページ <http://www.fathering.jp/index.html>

子育てホッとコーナー

Q こんなこと相談できる??

もうすぐ育児休業が終わるA子さん。共働きなので保育園に申し込みましたが、少し離れた所になってしまいました。保育園のあと育児をお願いしている祖母は、車の運転が出来ません。何かいい方法はありませんか。

A 大丈夫です。

山形市のファミリー・サポート・センターの会員に登録していただければ送迎も頼むことが出来ます。料金、手続き、その他詳しいことは、山形ファミリー・サポート・センターまでお問い合わせください。

TEL 023-634-6270